

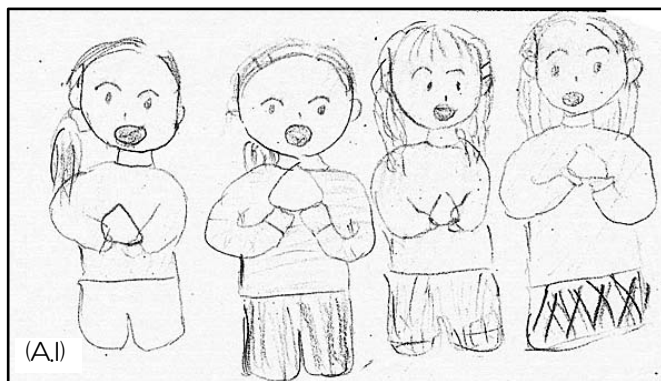
平成二十六年 未さん申さん達の田作り

～第五期あすみっ子田んぼ、第八期大椎っ子田んぼ 感謝の会編～

みそ仕込みを行ない、今年度の学校田んぼの作業はすべて終わりました。毎年、収穫したお米をいただきながら、子どもたち主催の感謝の会をしていただいております。田んぼで学んだこと、楽しかったことなど（今年は気持ち悪かったことランキングもありました！）をげきや呼びかけやクイズ、ビデオなどに見せていただきます。今年も大椎っ子、あすみっ子の5年生たちが、たくさんのお話を田んぼや野良作業を通して学んだようです。その報酬のおにぎりを感謝をこめていただき、みんなおいしさをかみしめていました。（あまりのおいしさに「ごちそうさまでした」を言い忘れてましたが…）子どもたちの中での原風景として谷津田やこの体験、そして学んだことが心の片隅に残ってくれればと思います。

大椎小学校のみなさんの感謝の会の感想をご紹介します。

☆今日、学校の体育館で、お手伝いをしてくださった方々への感謝の会を行なった。1組はクイズ、2組はランキング発表、3組は劇と各クラスに分かれて僕達が大椎っ子田んぼ活動で学んだことを発表した。その後呼びかけをして感謝を伝えた。最後にブルーシートに座っておにぎりを食べた後、金谷さんにお話をいただいた。大椎っ子田んぼの活動では、たくさんのお話を学ぶことができた。1年間本当にありがとうございました。（T.F）



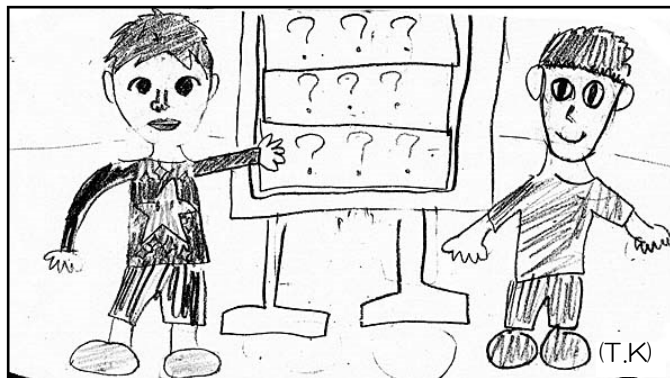
☆ぼくは感謝の会でクイズをやりました。友達の声がかうかうだったので、ぼくが全部言いました。クイズなどの出し物のあと、よびかけをしました。佐藤先生が教えてくれたので、上手にできたと思います。金谷さんやYPPの方、保護者の方が喜んでくれたのうれしかったです。（Y.T）

☆ぼくたちの作ったお米は昭和の味がしました。田んぼの活動でいろいろな体験をしてとても楽しかったです。感謝会で劇やクイズなどやって面白かったです。5月の稲刈り、7月の草取り、10月の稲刈りなどのいっぱいのお話をやった1年間の大椎っ子田んぼの活動の思い出は忘れられません。ありがとうございました。（T.M）

☆感謝の会では、自分達で作ったお米を食べて、とてもおいしかったです。自分達の出し物発表が、YPPの方々やお母さん方にもみんなの気持ち（感謝）が伝わっているといいなあ～と思いました。金谷さんのお話を聞いて、ご飯を食べる時には、ちゃんと「いただきます」「ごちそうさまでした」を言いたいなあ～と思いました。

（Y.F）

☆ぼくは感謝の会で、ランキングを発表しました。発表はきんちょうしたけど、うまくできました。よびかけもきんちょうしたけど、よく声が出せました。最後に金谷さんから食べ物のお話をあらためて教えてもらって、とてもよい体験ができたと思います。（T.K）



☆自然が作ってくれたお米で自分でつくったおにぎりは、とてもおいしくてよかったです。感謝の会では発表や司会をしました。お米（おにぎり）を食べるとき、いただきますはしたけれど、金谷さんからごちそうさまをしていなかったねと言われて、最後にごちそうさまをしました。（A.N）

☆自分たちでにぎったおにぎりがとてもおいしかったです。感謝の会でもいろいろな発表があり、なかでも命

の大切さについては自分でも感じています。いろいろなことが学べてとても楽しくできました。田んぼの作業は仕事だと教わり、こんなに大変だとは思いませんでした。ありがとうございました。(R.K)

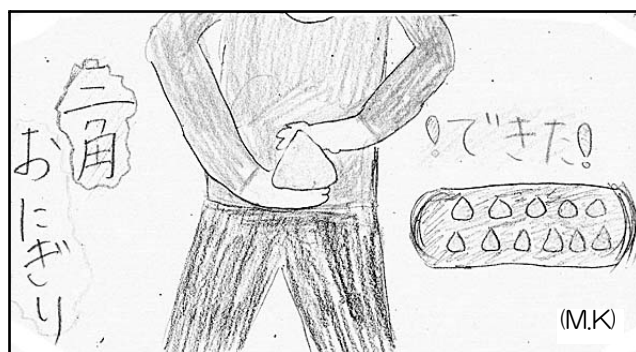
☆大椎っ子田んぼの感謝の会は、3組、1組。2組の順番で発表しました。わたしたち2組が発表する番になったときにはすごくきんちょうしたけど、大きな声を出して発表することができてよかったです。みんなの発表が終わってみんなが作ったお米のおにぎりを食べました。すごくおいしかったです。また、できたら、お米を作る機会があったらやってみたいです。(A.I)

☆今日の感謝の会では、お米を食べたり、クラスの出し物などをしました。お米はかめばかむほどほんのり味が出てきました。赤シャツ親父さんは大事そうに食べていました。クラスの出し物では、げきをしました。金谷さんやYPPの方々などが楽しそうにみていたので、よかったです。(K.A)

☆今日の感謝の会では、自分たちが作った米を食べたり、出し物をしたりしました。自分たちで作ったお米はふつうのごはんよりもおいしくて感動しました。短い間で練習したげきを失敗なくみなさんにひろうできたので、とてもうれしかったです。大人になっていただきますとごちそうさまを忘れずにいいたいです。(H.I)

☆1年間の大椎っ子田んぼを1回もけがをせず安全に行なうことができました。それは全部、金谷さんやYPPの方のおかげでした。今日お米を食べておいしかったです。これが1年間のせいかなと思いました。お米1つぶ1つぶに命があることを知って、これから家や学校でごはんが出た時に1つぶも残さずに食べたいと思いました。(M.K)

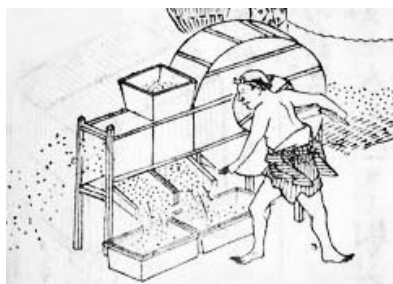
☆今日の感謝の会で3組はげきをやりました。金谷さんのお話でみんなの発表をほめてくださったのでうれしかったです。また、しゅうかくしたお米を食べました。作ってから時間がたったのにまだあたたかかったです。お米をよくかんで食べたらいつもとちがう味がしてすごいなとおもいました。(E.S)



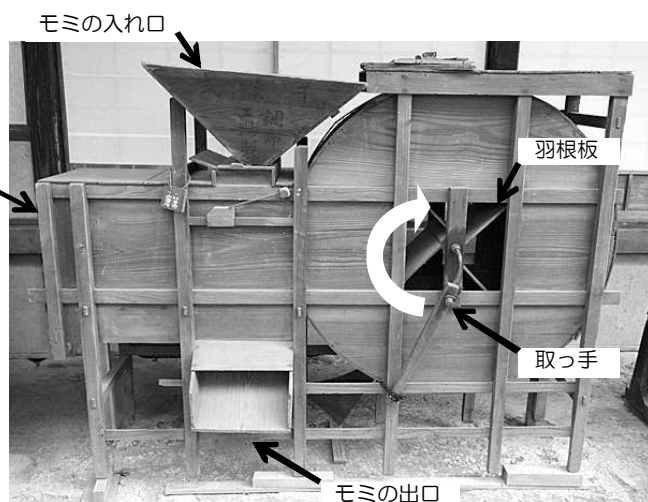
谷津田の農具図鑑⑥ 箕(み)・唐箕(とうみ)

脱穀を終えたモミには稲わらなどのゴミや実っていない空っぽのモミ(“しいな”)が混じっています。ゴミやしいなを取り除くのに、その昔は箕(み、手箕-てみ-とも言う)と呼ばれるちりとりのような形の竹で編んだ道具を使っていました。箕にモミを入れて高く持ち上げて、モミを少しずつ落としたところに風を当ててゴミやしいなを吹き飛ばしていました。風で選り分けるので“風選(ふうせん)”と呼ばれる方法です。箕を上下に揺すってモミを放り上げて風に当てる方法も行われていました。

箕は弥生時代から使われている歴史のある農具ですが、たくさんのモミを箕を使って風選するのはとても時間がかかる大変な作業でした。江戸時代になると中国から唐箕(とうみ)と呼ばれる農具が伝えられました。唐箕は取っ手を回転して羽根板を回すと風が起こる仕組みで、その風の中にモミを少しずつ落として、ゴミとモミを選別します。とても効率良く風選ができるので、全国で盛んに使われました。足踏み脱穀機で脱穀して、唐箕で風選するというのは昭和前半の米づくりではふつうの風景でした。その後、ハーベスタが発明され、脱穀と風選が一緒に、しかもエンジンの力で簡単にできるようになり、唐箕はほとんど使われなくなりました。(高山)



江戸の終わりに出された「農業便利論」に描かれた箕を使った風選のようす





里山たんけんレポート

第181回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2015年2月1日(日) 晴れ

きれいになった森のたかみに登り、木々の間から眺められるようになった田んぼの景観を楽しみました。フジづるのブランコで遊んだり、ゴンズイの冬芽と葉痕を見たり、シラカシの幹に集団で固まっていたヨコヅナサシガメの幼虫を見たりしました。

田んぼは丁度二ホンアカガエルの産卵が始まっているので卵塊の観察をしました。田に氷が張ったので卵塊は氷の下になっています。日のあまり当たらない斜面林下の田では氷の厚さは1.5cmにもなっていましたがその下にも卵塊がありました。カウントの予定でしたが氷と風でカウントしがたく観察だけにとどめ、15日に改めてカウントすることとしました。

次に鳥を求めて定例ルートを巡り14種を観察しました。巡りながらクズの可愛い顔に見える葉痕を皆で探しました。柳の木にチョウセンカマキリの卵塊が10個もついていたり、セイタカアワダチソウにはオオカマキリの卵塊がたくさんついていました。冬は何もないように思われますが見どころいっぱい楽しい観察会でした。

(参加者 大人9名、高校生3名、こども2名; 報告: 網代春男)

第172回 下大和田 YPP「アカガエルの産卵調査」

2015年2月15日(日) 晴れ

2月恒例の二ホンアカガエルの産卵調査です。みんなで田んぼを一つ一つ回って、産み付けられた卵塊を数えました。例年より早めの1月に始まった産卵は順調に進んでいる様子で、あちこちに卵塊があります。かたまって産み付けられているところでは、そっと動かして卵塊を分けて数えます。ノートに記録される卵塊の数がどんどん増えていきました。

今回の調査にカメの研究をしていらっしゃる方々が参加されていたので、カメの調査方法を見せていただきました。冬の間、カメは水路の土手際の柔らかい泥の中で冬眠しているのだそうです。胴長をはいて川に入り、長い手袋を付けて土手の内側をしらみつぶしに調べていくのは容易ではありませんが、調べ始めて間もなく、クサガメが見つかりました。カメに標識を付けるところを見せていただいたり、クサガメが実は比較的最近外国から持ち込まれたらしいことを教えていただいたり、カメのことをたくさん勉強しました。

(参加者 大人・大学生15名、こども5名、報告 高山邦明)



川に入って土手を丁寧にさぐるカメの調査

第177回 小山町 YPP「田んぼの手入れとアカガエルの産卵調査」

2015年2月22日(日) 雨

あいにくの雨となってしまう、予定していたオタ用の竹切りは中止しました。田んぼを見回ると一部の田んぼの畦に大きな穴が見つかったので雨の中ですが、急遽補修しました。水が貯まらないとアカガエルが産卵できないので。その後、田んぼを巡り、アカガエルの産卵状況を調べました。まだ産卵のピークは迎えていない様子ですが、着実に卵塊の数が増えています。一番早く産み付けられた卵はふ化して、オタマジャクシが出ていました。まだ、黒い棒のような形でオタマジャクシらしくないのですが、冷たい氷の中で時折、元気に動く様子を見るとうれしくなります。これから続く産卵が楽しみです。

(参加者 大人3名、小学生1名、報告 高山邦明)



雨の谷津田でアカガエルの産卵調査

<谷津田・季節のたより>

小山町

- 2月9日 アカガエルの卵塊を初認。7-8日ごろ産んだものと思われる(松下)。
2月11日 たっぶりの日差しに気温が上がった田んぼでメダカが群れをなして泳ぐ(高山)。
2月14日 日中なのに斜面林からフクロウの声がした。シロハラが鳴き交わす(高山)。
2月22日 オオイヌノフグリやホトケノザ、ヒメオドリコソウが咲く(高山)。

下大和田

- 2月17日 放棄田にウメが生え花を咲かせた(網代)。
2月20日 メダカが田んぼの中で群れていた(網代)。
2月27日 シュンランの蕾がふくらんでいた(網代)。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任をお願いします。

▼下大和田 YPP 第173回「味わおう! 春の野草」・第174回「苗代づくり」(兼、第2回米づくり講座)

谷津を散策して野草を摘み、天ぷらやおひたしにして食べます。ちょっと苦みのある春の味わいを楽しみにぜひお出かけください。そして、今年の米づくりの第一歩、苗代づくりをします。田んぼに作った苗代にモミをまきます。

日時: 野草を食べる会 2015年3月15日(日) 9時45分~14時

苗代づくり 2015年4月4日(土) 9時45分~14時 *いずれも小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に9:45(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:25、8:40など> 料金は520円)

持ち物: 弁当、飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物、野草を食べる会は加えて、お碗・お皿・おはし。

参加費: 野草を食べる会・・・小学生以上一律500円(食材費を含む特別料金です)、小学生未満無料

苗代づくり・・・ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

▼第183回 下大和田4月の谷津田観察会とごみ拾い

フデリンドウやアマナ、コブシやヤマザクラなど、たくさんの花が咲きます。生きものも活動し始めます。春の賑わいを楽しみましょう。

日時: 2015年4月5日(日) 9時45分~12時 ☆小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に9:45(下大和田 YPP に同じ)

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

▼ちば里山くらぶ活動日 谷津田の森と水辺の手入れ

日時: 2015年3月8日(日)、3月13日(金) いずれも9時45分~15時

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上) 持ち物: 飲み物、弁当、長袖長ズボンの服装、長靴、帽子、敷物

主催: ちば環境情報センター

▼3月の小山 YPP はお休みとします。

編集後記 3月に入って最初にやってくる二十四節気は啓蟄(けいちつ)。蟄虫啓戸(ちっちゅうこをひらく)ー冬ごもりしていた生きもの(蟄虫)が扉を開けて出てくる、という意味です。2月に立春や雨水があり、暦の上では春が始まっていることになりますが、やはり春の訪れを実感するのは3番目の二十四節気の啓蟄からです。アカガエルの産卵は立春に合わせるように始まりますが、産卵した親は再び蟄居(ちっきょ)して4月ごろまで土の中でスヤスヤお休み。卵だけが暦の春に合わせてオタマジャクシ、カエルへと育っていきます。(高山 邦明)